

三六〇六番

玉藻刈るたまもか 処女を過ぎてをとめす 夏草のなつくさ 野島が崎にのしまさき
廬りす我はいほわれ

三六〇七番

白たへのしろ 藤江の浦にふぢえうら いざりする 海人とや見あまみ
らむ 旅行く我をたびゆわれ

三六〇八番

天離るあまざか 鄙の長道をひなながち 恋ひ来れば 明石の門よりあかしと
家のあたり見ゆいへみ